



仙台国際音楽コンクールの楽しみかた

2名のボランティアメンバーから、異なる視点の楽しみかたをご提案します



いよいよ第8回仙台国際音楽コンクール(以下SIMC)が開催されます。今回は先に開催されるヴァイオリン部門の楽しみ方について課題曲を中心にお話したいと思います。

まず予選でのソロ演奏についてです。ウジェーヌ・イザイがバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタから深い感銘を受け1923年から翌年に全6曲の無伴奏ソナタを作曲しました。その作品の中から第3番(全曲の中で最も演奏機会が多い)と第6番のいずれか一曲が課題曲です。共に単一楽章で書かれ、7分前後の演奏時間ですが、音楽的にも技巧的にも高い水準の演奏が要求されます。もう1曲は前回と同様、バッハのヴァイオリン協奏曲第1番・第2番の2曲より1曲を選んでの演奏です。指揮者なし小編成オーケストラとの共同作業でバッハ音楽が持つ清涼かつ端正で精神的な美しさをいかに引き出せるかが聴きどころになります。予選からコンチェルト演奏を要求するところがSIMCヴァイオリン部門の魅力の1つでもあります。

セミファイナルは、メンデルスゾーンとドヴォルザークの協奏曲から1曲を選曲します。メンデルスゾーンはコンクールではおなじみの曲、一方ドヴォルザークは30分を超える演奏時間を要求する隠れた名曲です。12名のセミファイナリストがどちらの曲を選び、どのように表現するのか、聴きどころ満載です。

(ボランティア H)

続いて前回から始まったコンサートマスターとしての課題ではR.シュトラウス作曲、交響詩「英雄の生涯」を演奏します。コンチェルト独奏者とは異なる立場でオーケストラに対峙することが要求され、ソロとしての演奏に加えて、オーケストラをいかに主導していくのかが試されます。オーケストラが出す音色にどんな影響が出るのでしょうか？

ファイナルでは選ばれた6名がしのぎを削り演奏します。課題曲は前回と同様、モーツァルトの協奏曲第1番～第5番の5曲の中から1曲を選定します。「モーツァルトは難しい」と言われており、シンプルなかえって出来・不出来がわかりやすいともいわれています。2曲目はベートーヴェン～近代ショスタコーヴィチまでの作品15曲(今回は11曲)より1曲を選曲します。前回は一部人気曲に集中する傾向が強く、同じ曲が何度か演奏されました。今回は選択できる課題曲が増え、多様な曲目の聴き比べができたかと期待しています。

最後になりますが、コロナ蔓延の影響で今回出場者の皆さんは、これまで以上に厳しい環境を乗り越えコンクールに臨まれると思います。私たちは何気ない日常に触れることができる音楽がいかに大切かを強く認識するようになりました。制約は多いと思いますがこれまで以上に感動的なコンクールになると確信しています。

(ボランティア H)

SIMC開催期間の約2か月間、コンチェルト読者の皆様には、出場者の演奏を存分に楽しみ、応援していただきたいと思います。このコーナーでは、課題曲以外の面からコンクールの楽しみ方をご紹介します。

■会場で楽しもう！

なんといっても、予選から生の演奏を聴くことができるのは開催地ならではの楽しみです。審査会場では、出場者の緊張感を、息づかいや所作から直に感じることができます。また、審査委員の方々の出場者を見る眼差しなど、一般の演奏会とは異なる場面もあり聴く側も背筋が伸びる思いです。会場の外では出場者のポトレートが掲示されており予選通過者にはリボンで作られた花が飾られます。応援している出場者のポトレートの前で写真を撮る方もいらっしゃいますよ。また、誰でも出場者へ応援メッセージを贈ることができます。ボランティアスタッフが出場者の母国語に翻訳して、1階のインフォメーションデスクに貼りだしてくれます。さらに、審査委員の審査のほか、聴衆賞という賞もあります。セミファイナル開催日ごとに聴衆による投票で決まる賞ですので、是非読者の皆さんも一票を投じてみてはいかがでしょうか。

■YouTubeで楽しもう！

SIMCの公式サイトでは出場者の演奏動画が配信されます。会場に足を運べなかった方もコンクールの模様を繰り返し視聴することができます。一つの課題曲に絞って、じっくり聴き比べするのも新たな発見があって楽しいですよ。

■関連事業で楽しもう！

1. マスタークラス
審査委員の先生方の指導を間近で見られる絶好の機会です。筆者も聴いたことがありますが、指導する側もされる側も、限られた時間を最大限に活かそうと真剣そのもので、聴いているこちらにも汗を握るほどでした。ヴァイオリンやピアノを習っている方だけでなく多くの方に勧めたいイベントです。
2. チャレンジャーズ・ライブ
コンクール期間中、次の審査に進めなかった出場者によるコンサートです。演奏の機会を渴望している出場者の情熱を感じる演奏を堪能していただけたと思います。

最後に・・・

出場者の皆さんは人生を賭けてコンクールに臨んでいることを心の片隅に留め置いていただきたいと思います。特に審査前は大変集中されていますのでそっと見守ってください。ソーシャルディスタンスは保ちながらも、熱い応援をお願いいたします。

(ボランティア W)

発行：第8回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

[コンクール公式Twitter] @sendai_simc [ボランティアブログTwitter] @simc_volblog

問合せ：仙台市民文化事業団音楽振興課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: https://simc.jp

SENDAI
INTERNATIONAL
MUSIC
COMPETITION
for Violin & Piano



仙台国際音楽コンクールニュース

コンチェルト Concerto



第8回仙台国際音楽コンクール

ヴァイオリン部門：2022年5月21日(土)～6月5日(日)

ピアノ部門：2022年6月11日(土)～6月26日(日)

Vol.8-4

(2022.5.20 第8回コンクール関連 第4号)

インタビュー 堀米ゆず子 審査委員長 (第8回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門)

第8回仙台国際音楽コンクールのヴァイオリン部門審査委員長、堀米ゆず子さんにメールでお話をうかがいました。輝かしい経歴や近況に加えて、ご自身のコンクール出場時のエピソードなど、貴重なお話を披露いただきましたのでご紹介します。

1980年のエリーザベト王妃国際音楽コンクールで日本人初の優勝をされました。エリーザベト王妃国際音楽コンクール出場のきっかけ、そしてコンクール優勝は音楽家としてどんな影響があったのかお聞かせください。

1979年の海外派遣コンクールに入賞し、80年度に行われるコンクール、どこかに行くことになりました。「どうせ受けるなら大きいところのほうが落ちて恥づかしくない」という気持ちと、江藤俊哉先生から「あなたはラテンの血が入っているからエリーザベト向きだと思いますよ」との言葉をいただき、参加を決めました。

とは言っても13曲もある曲をこなし、少しでも良いものにしていく過程は並大抵ではなく、とにかく78年カール・フレッシュ国際ヴァイオリン・コンクールに参加して一次で落ちた経験から「奇跡は起こらない。言葉が話せない音楽が内向的になる」などの教訓と江藤俊哉先生のご指導の下、ブラームスのソナタ、カルメン幻想曲、パガニーニのカプリース3曲、その他を仕込みました。ブリュッセルに着いてからは本選で共演できるかもしれないナショナルオーケストラを聴きに行ったり、友達と会ったりしていました。「練習しなくていいの？」と言われ「日本でやってきたから」という言葉に友達は「これはすごく良いか一次で落ちるかだ…」と一次予選を仕事を休んで聴きにきてくれました。妹もザルツブルグから来てくれたのでおしゃべり相手になってくれました。彼女のヨーロッパ生活の経験なども非常に助けになりました。一夜明けたらシンデレラ…優勝などという思いもかけない事態になり、その後は本当に海に放り込まれて「泳げ」と言われたように、次々とコンサートが舞い込みました。それも大きなデビューばかりに言葉もままならぬまま大変なソリスト生活が始まりました。しかしマールボロ音楽祭でルドルフ・ゼルキン先生に会いその後クラウディオ・アバド、シャーンドル・ヴェーグ、ギドン・クレーメル、マルタ・アルゲリッチ、ミッシェル・マイスキーその他大勢の音楽家との出会いがありたくさん教えられました。またマネージャーにも恵まれなんと40数年やってきました。

ブリュッセル王立音楽院と、マーストリヒト音楽院で後進の指導をされていますが、コロナ禍での指導方法や生活の変化、音楽家としての新しい活動などありましたらお聞かせください。

コロナ期間は2年に及び様々な影響が出ています。まずオンラインでレッスンし、今でも遠方の生徒とはそのようにコミュニケーションをとっています。学生生活が無くなった事、また将来に対する彼らの不安、それを上回る音楽の力を教えていきたい。私のクラスの生徒の国籍は14カ国です。音楽家としての生活は毎年新しい出会いがあります。今年はピアノのヴァレリー・アフアナシエフさんとの共演が待っています。彼とは練習中も話が弾みます。色々な方面での「美意識」をよく話します。



堀米ゆず子さん

ご自身のアルバム ヴァイオリン・ワークスVol.1、Vol.2等で、野平一郎さん(仙台国際音楽コンクールピアノ部門審査委員長)と共演されています。

非常に尊敬申し上げる音楽家で、また素晴らしいピアニストでいらっしゃる。曲の構成感など、安心して身を任せられる方です。

ベルギーを生活の拠点にされた経緯など教えていただけますか。また、世界各地を行き交う音楽家生活のご苦労などありましたらお聞かせください。

コンクール優勝後、パリ、ロンドン、ニューヨークと仮住まいして東京とを行ったり来たりしていました。しかしブリュッセルのホストファミリーがいつも屋根裏部屋を空けておいてくれたこと、旅をするのに都合の良い地点だったこと、そしてやはりベルギーという国の気質が私にあったのでしょう。音楽家は旅芸人です。旅が多いと家族は持てないと思っていましたが幸運な事に主人も音楽家でよく理解してくれます。子育ての時期が一番大変でした。ソリストと母親は180度真逆です。一方は集中、一方は果てしなく続く休みなし…でも最初の5年間は周囲の理解と協力にあやかりいつも一緒に行動していましたので、お互いに寂しい思いはしませんでした。

仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門の特徴をお聞かせください。なんとっていきなりコンチェルトを弾くということ。私の知る限り、予選からオーケストラの伴奏による課題曲の演奏はここだけです。音の出し方、リズムをきちんと弾く事の大切さ、などを含めてオーケストラとの共演は普通の本番の10倍勉強になります。

仙台国際音楽コンクールに出場する若きヴァイオリニストにアドバイスをお願いします。

とにかくこの素晴らしいチャンスを目標にして勉強してください。最後まで諦めないこと、それには体力も気力もまた息抜きも必要です。健全な心身で臨まれることを期待し、皆さんの演奏を楽しみにしています。



仙台国際音楽コンクールボランティアプロジェクトVol.27
第8回仙台国際音楽コンクールを120%楽しむために・・・
教えて 野平せんせい!!

～第8回仙台国際音楽コンクールピアノ部門審査委員長 野平一郎氏を迎えて～



野平一郎さん
 ©YOKO SHIMAZAKI

3月13日、日立システムズホール仙台交流ホールにて第8回仙台国際音楽コンクール（SIMC）に先立ち、ボランティアプロジェクトが開催されました。
 野平先生は、小学生でピアノを習い始め、中学時代からオーケストラのコンサートに通い、そこで様々な曲、日本人の作曲家の作品を聴き、作曲家になりたいと東京藝術大学附属音楽高等学校作曲科に進学。同大学・大学院を経てパリへ留学されました。その後、日本を代表する作曲家でありピアニストとなった野平先生が好きな作曲家は、モーツァルト、ベートーヴェン、ドビュッシー。とりわけ子供のころに弾いたドビュッシーの曲に感覚的に奮い立たせられるものを感じ、自由ということを考えてドビュッシーのその人柄に惹かれるというご自身のお話から、作曲家とその時代背景、コンクールへの想い、演奏方法など多岐に及び音楽のように流れるようなお話と素晴らしい演奏の時間となりました。
 その中からSIMCを120%、それ以上楽しむためのお話をギュギュッと凝縮してご紹介いたします。審査委員長からの「本当に今回はピアノのフェスティバルだね」というお墨付きの出場者の演奏を、予選からお聴き逃さないように♪



課題曲について

モーツァルトのピアノコンチェルトはたくさん素晴らしい曲があるのですが、今回は第7回に引き続いて、あまり普通のコンサートで聴けない10番台のコンチェルト（K450、K451、K453、K456、K459）もセミファイナルの課題曲になっています。当然第20番（K466）以降、有名なコンチェルト群もファイナルの課題曲に入っています。どこかでモーツァルトのコンチェルトを弾くことになります。この10番台のコンチェルトはなかなか聴く機会がないですが、モーツァルトが故郷ザルツブルクからウィーンに出てきて自信を持って自作自演しただけに本当に一つ一つ素晴らしい曲です。10番台のコンチェルト群の曲もぜひ聴いていただきたい。ピアノのレパートリーは、ラフマニノフあたりで終わりというわけではなくて、そこから連続する多くの作曲家から有名な作品が生まれている。そういうものが予選、ソロのステージでたくさん出てきます。今回初めて課題曲の中に矢代秋雄先生のピアノコンチェルトを入れました。これは1967年作曲の素晴らしい曲で、中村紘子さんが初演され、それ以来日本でも世界でも何百回も演奏されている作品です。やはり日本人の作曲家の曲が選択曲に入っているのがとても重要ではないかと思っています。海外の人はどんな選択曲があるのだろうと調べて、知らない曲を知ってみようと思うところから興味が始まる。今回選ばれなくてもこんな曲が日本にあるのだということアピールするととても良い機会になるかとも思っています。
 彼らがどんな曲を弾くか、例えばソロのステージでは課題曲はありませんし、好きな曲を選ぶので現代の曲が出てきたり、自分の国の曲が出てきたり、我々審査委員だって全部知らないような曲が出てきたりします。それも全部暗譜で弾くことが課されています。コンクールでこれまで聴いたことがないのはじめての作品に出会うことも、コンクールの楽しみの一つかと思えます。

仙台国際音楽コンクールへ向けて

コンクールですから様々な要素が入ってきます。その人の技術的、音楽的な能力とか、でもその人が自分の弾きたいものを見せてくれないとつまらないですね。出場者の皆さんは10年以上ピアノに対してキャリアを持っている中で、ピアノはどのように響かせるとか、音楽をどう人に伝えるなど、その人の持っている個性が絶対に自分の中に育まれているはずなので、そういうものをまんべんなくぜひ見せてほしいと思います。ある過去のお手本を目指していくのではなく、自分の解釈、自分がこのように考えているということを引き見せていくことが要求されます。1つの同じ作品でも、演奏者によってみんなアプローチが違う。これが大切ですね。ぜひ出場者もコンクールを準備することで、自分の持っている音楽的なフィールドを豊かにすることができれば幸いですね。
 コンクールではもちろん高い技術的な能力が要求されます。でもそれだけがすべてを支配するわけではありません。コンクールは人生の一部、人生の一瞬です。コンクール後の人生、後の音楽家としての人生がものすごく長い。それが充実しないのでは何のためのコンクールなのだろうと思います。コンクールでどんな結果になるかわかりませんが、そこからの長い、長いその人の音楽的人生が豊かで創造力あふれるものでない意味がない。コンクールはその人を世間に知らせるのにとっても重要な場所ですが、そこからの人生がとて重要。このコンクールがその人が大きくなっていくサポートになったらすごくうれしいですね。

審査委員長として

誰にとっても審査委員でなくても一般的なコンサートでも、この人は知らないから聴いてみようと思って、そこで新しい才能に出会うととてもピンとくるものがあります。若い「アッ」という才能を見てみたい。人間60年以上も生きていけばいろんな演奏を聴いてきて、だいたい音楽的な地図が分かっているし、いろいろな音楽的表現も分かっているのですが、そうではなくて「アレッ」こんなことは聴いたことがなかった、もしそんな方が生まれてくるなら審査委員にとっては最高のご褒美なのではないかと思えます。今回ピアノ部門の審査委員長という大役をさせていただくのは身に余る光栄です。今年のピアノ部門はとてレベルが高い。このコンクールは予選開始の午前10時から期待ができるコンクールだと思えますので、皆さんに来ていただいて、若い音楽家を応援してください。



～コンクールを支えるメンバー～
共演ピアニストのお仕事

ヴァイオリン部門の関連事業を支える、共演ピアニスト6名の皆さんにお話をうかがいました。

チャレンジャーズ・ライブ、学校訪問ミニ・コンサートに向けての準備

共演ピアニストの最初の打ち合わせは昨年11月。チャレンジャーズ・ライブでは、プログラムがコンクールの課題曲から選ばれることが多いので、予め皆さんで伴奏を分担し、コンチェルト、小品を含め一人あたり20数曲程の担当を決めておきます。本番直前まで、曲目、共演者が決まらないため、演奏しないかもしれないものを含め、多数の曲を用意しておくのは容易ではありませんが、素晴らしい才能に溢れた出場者の方との共演を楽しみに準備が始まります。



第7回コンクール チャレンジャーズ・ライブより
 ピアノ共演 進藤泉さん

予選審査結果発表から本番までのスケジュール

予選審査の結果発表は3日目の午後7時頃。惜しくも次のステージに進めなかった出場者からの出演申し込みを待ち、共演者との組み合わせ、曲目の決定は深夜に及びます。翌日がリハーサル、そして翌々日には学校訪問ミニ・コンサートを皮切りに関連事業の本番がスタートします。

共演ピアニストの皆さんの想い

進藤泉さんは第5回、文京華さんは第6回、木村奈都子さんは第7回からの出演。予選通過が叶わなかった出場者の気持ちに寄り添いサポートに徹していらっしゃるとのこと。「この曲弾きたいんだけど」と楽譜を持って来る飛び入りのリクエストにも快く応じられるそうです。

チャレンジャーズ・ライブでは、コンクールの緊張感とはまた違うリラックスした出場者の演奏を味わう事ができます。演奏後にはコーディネーターの田原さんのインタビューが出演者の魅力を引き出します。聴衆に温かく迎えられ、素晴らしい演奏をして下さった若いヴァイオリニストの皆さんに盛大な拍手とブラヴォーが送られた時は、共演ピアニスト一同も大きな喜びを感じる瞬間です。今回初めて出演する蔡翰平さん、佐々木真央さん、八巻梓さんは留学を終えて仙台に戻った若手ピアニストたち。「同世代の出場者に寄り添い、応援したい!」と、共演を楽しみにしています。

～第8回コンクール期間中の関連事業情報～

■審査委員によるマスタークラス

世界一流の演奏家であり、指導者でもあるコンクール審査委員が来仙する絶好の機会に、将来のコンクール出場者層の育成をはかることを目的とした企画です。マスタークラス開催については仙台市民や地元指導者からの要望が強く、第4回コンクールから実施し好評をいただいています。今回のマスタークラスでは、ヴァイオリン部門6名、ピアノ部門8名の審査委員のクラスが予定されております。



前回のマスタークラスの様子

部門	日程	開演	講師	会場
ヴァイオリン部門	5月30日(月)	11:00	オリヴィエ・シャルリエ、川崎雅夫、ジョエル・スミルノフ	日立システムズホール仙台 シアターホール
	5月31日(火)	11:00	堀米ゆず子、グレゴリー・アース、チョーリャン・リン	
ピアノ部門	6月20日(月)	11:00	海老影子、ジャック・ルヴィエ、ジュゼッパ・アンダローロ、ミシェル・ペロフ、マティアス・キルシュネライト、	日立システムズホール仙台 シアターホール 練習室1
	6月21日(火)	11:00	エリック・タヴァッシェルナ、エリソ・ヴィルサラゼ、フランク・ウィボー	

★レッスンは一般公開されます。聴講券発売中。全席自由（1日券）一般：1,000円、学生500円

■出場者によるコンサート「チャレンジャーズ・ライブ」

コンクール予選終了後に、次の審査段階に進むことができなかった出場者による市民向けの無料コンサートを開催します。優れた技術と音楽性を有するコンクール出場者の演奏を鑑賞していただけます。

部門	日程	開演	会場	席数
ヴァイオリン部門	5月26日(木)	19:00	日立システムズホール仙台 シアターホール	494席
ピアノ部門	6月16日(木)	19:00	日立システムズホール仙台 シアターホール	494席

★入場無料・直接会場へ



前回第7回コンクール開催期間中は、ヴァイオリン、ピアノ部門各2回ずつ開催し、合計773名の市民が来場し演奏を鑑賞するとともに、出場者との交流も楽しめました。
 ※第8回はサイン会はございません。